

## 「地域密着型金融推進計画」進捗状況について

平成17年8月に策定いたしました「地域密着型金融推進計画」の平成17年4月～18年9月までの進捗状況についてご報告いたします。

当金庫は、金融庁より公表された「地域密着型金融の機能強化の推進に関するアクションプログラム(17～18年度)」に基づき、「リレーションシップバンキングの機能強化計画」(平成15年度～16年度)を踏まえ、また、平成18年度からスタートしました当金庫の長期計画「Meguro Style(めぐろスタイル)2006～」(平成18年4月1日～平成21年3月31日)に基づき、当金庫の目指すべき金庫像「最大限の機動力を発揮して地元の安心と豊かさに貢献する」の実現に向け、「地域密着型金融推進計画」を推進しております。

### 1. 全体的な進捗状況について

この期間中の取組みの中で、当初計画しておりました取組み策については、態勢面の強化を中心にほぼスケジュール通りに進めることができました。

今後は、更なる成果に結びつくよう取り組んでまいります。

### 2. 主要項目の進捗状況について

#### (1) 事業再生・中小企業金融の円滑化

「最大限の機動力を発揮して地元の安心と豊かさに貢献する」の基本理念のもとに営業店と本部企業再生グループが一体となり、お客様に適した支援を行うことを第一として、新たに支援先企業を追加する等、取組みの強化を図りました。

新しい取組みとして、事業再生ファンド組成への参画や新銀行東京との業務提携等により、事業再生・中小企業金融の円滑化に向けた取組みが進捗しました。

また、目利き、情報収集、適切な再生支援という職員の能力向上に向けた取組みに注力し、研修の実施や本部担当部署による臨店指導を全店実施し、人材育成に努めました。

#### (2) 経営力の強化

バーゼル に向けての対応を検討するとともに、リスク管理の高度化に向けて各種セミナー等へ積極的に職員を派遣し、人材の育成に努めました。また今期、この対応に対するシステム面、態勢面で整備が図られ、平成19年3月期の実施に向け取組みを強化いたしました。

また、コンプライアンス態勢の強化を図るべく、コンプライアンス・プログラムの見直しや本部担当部署による臨店指導を行うとともに、職員向けコンプライアンス・アンケートを実施する等態勢整備に注力いたしました。

(3) 地域利用者の利便性向上

お客様満足度の向上に向けた「お客様アンケート」を実施し、約500名の方からご回答をいただきました。いただいたご意見をもとに業務改善を進めており、今期行いました営業店の改造工事等にも活用させていただきました。

また、狭域高密度による地域とのかかわりを重視した営業態勢を継続する中で、積極的に地域の行政とも連携を行い、その中で、新しい取組みとして、地域の環境問題に取り組む「めぐるグリーンアクションプログラム」への参加や地域の安全対策に取り組む「安全・安心のまちづくり」活動に今年度下期より参画いたします。

3. 要注意先債権の健全債権化等に向けた取組み実績について

本部に設置された企業再生支援グループが営業店と連携して実効性ある取組みを目指して活動を行っております。

平成18年度は、再生支援先19先でスタートしましたが、3先を追加し22先でその活動を行いました。この1年6ヶ月の取組み実績としましては、ランクアップ先が8先となっており、今後も継続的な活動を行う中でその実現性を高めてまいります。

経営改善支援の取組み実績（平成17年4月～18年9月）

（単位：先数）

		期初 債務者数	うち		
			経営改善支援 取組み先 α	αのうち期末に債務者区分 がランクアップした先数 β	αのうち期末に債務者区分が 変化しなかった先 γ
正常先		2,160			
要 注 意 先	うち その他要注意先	552	26	7	17
	うち要管理先	35	2	1	1
破綻懸念先		17			
実質破綻先		32			
破綻先		9			
合 計		2,805	28	8	18

## 個別項目の取組みの進捗状況

項 目	取組み方針及び目標	進 捗 状 況
		17年4月～18年9月
I. 具体的取組み		
1. 事業再生・中小企業金融の円滑化		
(1) 創業・新事業支援機能等の強化	<ul style="list-style-type: none"> <li>・制度融資の積極的活用を図るとともに、狭域高密度の活動に徹し、重点地域内で創業・新事業等の情報収集を図り、その中で、相談があった場合は通常業務の中で対応するほか、業務協力をすることになっている商工組合中央金庫等、必要に応じて外部機関の協力を得ながら対応していく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・職員のレベルアップを目的に臨店指導を全店実施し、融資担当者の審査能力向上に取組みました。</li> <li>・創業支援実績：8先</li> <li>・当金庫取引先等より独立開業した先へ制度融資を活用した創業支援の取組みを行いました。</li> </ul>
(2) 取引先企業に対する経営相談・支援機能の強化		
取引先企業に対する経営相談・支援機能の強化	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域中小企業の活性化のためにもコンサルティング機能の充実に積極的に取組んでいく。</li> <li>・その為に各企業の情報を分析できる人材の育成、態勢の整備を図り、経営情報やビジネスマッチング情報の提供をしていく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・四半期ごとに東京都信用金庫協会が運営する「景況調査」に担当者を派遣し、地域の景気動向について分析調査を行うとともに、その結果を取引先企業に提供するため小冊子として店頭配布いたしました。</li> <li>・上記調査結果を地域行政にも生かすべく、地元行政、商工事業者関係代表、金融機関で構成される「景気対策情報連絡会議」に参画し、地域の景気動向、経済動向の共有化、検討を行いました。</li> <li>・ホームページにおいても、経営情報やビジネスマッチング情報を掲載し情報提供に努めておりますが、今後も地域に有益な情報提供ができるようコンテンツの目直しや整備を進めてまいります。</li> </ul>
要注意先債権の健全債権化等に向けた取組みの強化	<ul style="list-style-type: none"> <li>・企業再生支援グループが営業店と連携し、効果のある活動を行なう。過剰債務体質の先はその体質改善の可能性を見極め、ランクアップを目的に検討し的確に対応していく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・平成17年4月、12月および18年5月に経営改善支援の取組実績(ランクアップ実績)をホームページ及び店頭備付けの小冊子にて公表いたしました。</li> <li>・平成18年度においては、支援先企業19先でスタート、9月に3先を追加し、合計22先を再生支援先として、企業再生支援グループ及び店長同行訪問による経営指導を通じ、経営改善計画書の提出にもとに、態勢や当初の行動計画等を順次見直しを行いました。</li> </ul>
健全債権化等の強化に関する実績の公表等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・当金庫営業地区内の取引先企業に対し企業再生支援活動を通じ、地域経済、中小零細企業の活性化・発展に貢献することにより信用リスク量の低減、自己資本・収益力の強化を図り、地域における社会的使命を果たすことを目標として、その取組み実績について公表して</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>平成17年4月、12月および18年5月に経営改善支援の取組実績(ランクアップ実績)をホームページ及び店頭備付けの小冊子にて公表いたしました。今後とも、お客様にわかりやすい公表に努めてまいります。</li> </ul>
(3) 事業再生に向けた積極的取組み		
事業再生に向けた積極的取組み	<ul style="list-style-type: none"> <li>・財務体質の改善を中心にランクアップ実績が図れるよう取り組む。過剰債務の先については健全化を目標にリスクの低減を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・企業再生支援グループによる直接的な再生支援活動とともに、地域の事業再生スキームである事業再生ファンドに参加することを通じて、事業再生に向けた取組みを強化いたしました。</li> <li>・また、今回事業再生ファンドと連携した新しい融資スキームである「東京再生支援資金」の取扱いを開始いたしました。</li> </ul>

項 目		取組み方針及び目標	進 捗 状 況
			17年4月～18年9月
	再生支援実績に関する情報開示の拡充、再生ノウハウ共有化の一層の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>・過剰債務体質の企業をどのように再生させたか、その支援実績やノウハウについて各営業店と連携し取引先の経営実態を的確に把握し、財務内容の改善による債務圧縮を促す。</li> <li>・過剰債務を圧縮することにより、再生できる先は営業店・本部と連携して改善を推進する。</li> </ul>	<p>再生支援実績につきましては、平成17年5月より「リレーションシップバンキング機能強化計画書進捗状況」の中で掲載し、店頭及びホームページで公表しております。</p> <p>今後とも、お客様にわかりやすい公表に努めてまいります。</p>
	(4) 担保・保証に過度に依存しない融資の推進等		
	① 担保・保証に過度に依存しない融資の推進等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・担保・保証に過度に依存しないため、企業のキャッシュフローを算出しこの分析に対する認識を高めて、審査能力の向上を図る。また、事後モニタリングの強化により財務内容の変化を見逃さないよう徹底する。</li> </ul>	<p>キャッシュフローや担保・保証に過度に依存しない融資について、営業店融資担当責任者が出席する融資会議等を通じて研修を行い、共通の認識を持つよう努めております。今後もこの取組みを続けてまいります。</p>
	中小企業の資金調達手法の多様化等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・売掛債権担保ローンについて既にスキーム等の理解は得られつつあるが、再度周知徹底を図り、そのプロセスの整備を行い今後も取り組んでいく。</li> <li>・新銀行東京と提携しその機能の活用を検討していく</li> </ul>	<p>中小企業の資金調達手法の多様化を図るため売掛債権担保ローン、新銀行東京の提携商品について取組み、これらのスキームについて営業においても理解が浸透したことから、取扱い実績も出始め、取組みは進捗いたしました。</p> <p>今後も個別企業に適した資金調達手法を考え、継続的に推進してまいります。</p>
	(5) 顧客への説明体制の整備、相談苦情処理機能の強化	<ul style="list-style-type: none"> <li>・与信取引に関する顧客への説明態勢の整備と契約内容や金融商品説明義務の周知徹底およびスキルアップと説明態勢の整備を行っていく。</li> <li>・法令にあった説明義務履行のため、ホームページへ最新情報の提供を随時行っていく。</li> <li>・苦情全般については、規程・マニュアル等による勉強会の継続実施によりスキルアップをはかっていく。</li> </ul>	<p>当金庫の苦情・トラブルの取り扱い状況や全国しんきん相談所に寄せられた苦情・相談等を本部にて取りまとめ、コンプライアンス委員会で検討するとともに、改善事項等について全営業店にフィードバックし、早期の改善や認識の共有化を図りました。</p>
	(6) 人材の育成	<ul style="list-style-type: none"> <li>・目利き力の強化等といった企業の将来性や技術力を的確に評価するための取組みを継続することで身に付けた能力をベースに審査・管理が行える態勢を強化し、担保・保証に過度に依存しない融資を引き続き推進していく。また、事業再生・経営支援に向けた取組みも強化が必要である。</li> </ul>	<p>業界団体が行うセミナーや金庫の助成金制度を活用した通信講座の履修を通して人材育成に努めました。</p> <p>今後も各種外部研修に積極的に職員を派遣し、事業再生・中小企業金融の円滑化を図れる職員の育成に努めてまいります。</p>

項 目	取組み方針及び目標	進 捗 状 況
		17年4月～18年9月
2. 経営力の強化		
(1) リスク管理態勢の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>平成19年3月末からのパーゼルⅡの円滑なる導入にむけて、各リスクカテゴリーの測定方法の決定および試算を早期に進める。また、計量化されたリスク量をもとにリスク管理委員会を中心としたリスク管理態勢機能の実効性を高める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>共同事務センター新ALMシステムへ移行が完了し、リスク計測における精緻化への取組みが進捗しました。</li> <li>パーゼルⅡ対応に向けた取組みについても、本部各部門横断的な作業部会において、システム面、データ整備面の方向性を決定し、本格導入に向けた態勢が整いました。</li> <li>計量化されたリスク量をもとにリスク管理態勢機能の実効性をさらに高めてまいります。</li> </ul>
(2) 収益管理態勢の整備と収益力の向上	<ul style="list-style-type: none"> <li>信金中央金庫の「信用金庫業界の中小企業信用リスクデータベース(以下、SDBという。)」の有効活用を図る。</li> <li>管理会計的な手法について、共同センター新システムへの乗換えでシステムの対応をするとともにその活用を図り収益管理態勢の整備と収益力向上に向けた取組みを推進する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>取引先の共通格付の日時更新が可能になる等、進捗が見られました。また、今期において、共同事務センター新システムへの乗換えのためのネットワーク更改を実施し、システム導入に向けた態勢整備が図られました。</li> </ul>
(3) ガバナンスの強化		
協同組織金融機関におけるガバナンスの向上	<ul style="list-style-type: none"> <li>半期開示 パーゼルⅡ等の動向を踏まえ、内容を充実させていく。</li> <li>総代会の機能強化 総代会の機能拡充に向けて、引続き総代会に関するディスクロージャーを継続し透明性を高めていく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>17年6月の総代会において、理事長より、会員よりの意見、要望等に対する金庫のこの1年間の対応状況について説明、今後とも会員よりの意見、要望を積極的に取り入れ健全経営を目指すことを宣言しました。</li> <li>2005年、2006年版ディスクロージャー誌において総代会制度の仕組み、機能について掲載しました。</li> <li>17年11月、17年9期における半期開示を行いました。</li> <li>上記、ディスクロージャー誌や半期開示については、店頭設置や配布するとともにホームページ上においても公開しました。</li> </ul>
(4) 法令等遵守(コンプライアンス)態勢の強化		
営業店に対する法令等遵守状況の点検強化等	<ul style="list-style-type: none"> <li>コンプライアンス規程、マニュアル、倫理綱領の活用により職員の法令遵守意識の向上に努める。</li> <li>内部監査の充実・自店検査の徹底に努める。</li> <li>コンプライアンスチェック報告の励行と問題点の検討と改善を行う。</li> <li>本部集合研修や店内勉強会の継続実施を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>コンプライアンス委員会・委員長及び事務局が営業店を全店臨店し、コンプライアンス・プログラムの進捗状況、連続休暇制度、セクハラ、パワハラ、不祥事対応等について調査・指導を実施しました。また職員の個別面談も実施し法令順守の重要性を指導いたしました。</li> <li>18年5月 反社会的勢力への対応要領制定</li> <li>18年5月 内部通報制度運用要領制定</li> <li>18年5月 コンプライアンス・アンケートの実施。</li> </ul>

項 目		取組み方針及び目標	進 捗 状 況
			17年4月～18年9月
	適切な顧客情報の管理・取扱いの確保	<ul style="list-style-type: none"> <li>・継続的な教育訓練により、適切な顧客情報の管理・取扱いの実効性を確保する。</li> <li>・顧客情報管理・取扱いについての規程・マニュアル・管理手法について適時見直し実効性を確保していく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・17年4月 コンプライアンス・プログラムおよび臨店検査項目に顧客情報保護に関する件を追加しました。「個人情報保護について」チラシ、ポスター、ホームページにて金庫の方針を開示しました。</li> <li>・17年6月 個人情報管理体制に係る一斉点検実施に伴ない全店で監査およびヒアリングを実施しました。</li> <li>・17年9月 職員向け情報誌(店内研修用)「めぐろ. COM」にて、個人情報保護について、基礎知識の再確認を行いました。</li> <li>・17年下期 個人情報保護に関する項目を含めた臨店検査を継続的に実施するとともに、金庫内ネットワーク整備計画に伴い、ネットワークセキュリティ対策をベンダーとの間で検討を行い、システム構成について方向性を決定しました。</li> <li>・18年上期 コンプライアンス委員会の委員長及び事務局が営業店を順次臨店し、コンプライアンス・プログラムの進捗状況の調査を実施。 パソコン等ネットワーク機器使用に関するセキュリティチェックのため、全営業店を臨店し、指導、教育を行いました。</li> </ul>
	(5)ITの戦略的活用	<ul style="list-style-type: none"> <li>・平成17年度の事業計画の中でも、経営基盤の強化として、ITバンキングの積極的な取り組みを掲げており、特に法人インターネットバンキングの契約先増加を重点目標として推進していく。</li> <li>・共同事務センターのシステム活用のためにも新システムへの乗換を検討していく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新ネットワークの構築と心臓部であるサーバの乗換え作業を9月に完了しました。これに伴い、サーバを共同事務センター内(品川)へ移設し、各営業店へのオンラインネットワークを分散することで、災害時や電力障害時におけるリスク分散化が図られました。</li> <li>・インターネットバンキングは、個人、法人とも継続的な推進を図るとともに、セキュリティ面の強化のため、電子認証システム等の導入の検討を行い、18年度下期おいての導入を決定しました。</li> </ul>
	(6)協同組織中央機関の機能強化	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今後も信金中央金庫の分析制度及びALM支援機能を活用して業務運営に活用するとともに、リスク管理能力の更なる向上を目指す。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・信金中央金庫が主催する各種研修へ職員を積極的に派遣し人材の育成に努めました。</li> <li>・信金中央金庫が運営する「経営分析制度」、「ポートフォリオ分析」をもとに分析検討し、その活用に努めました。</li> <li>・信金中央金庫の運用商品の活用を検討し、実施しました。</li> </ul>

項 目	取組み方針及び目標	進 捗 状 況
		17年4月～18年9月
3. 地域の利用者の利便性向上		
(1) 地域貢献等に関する情報開示		
地域貢献に関する情報開示	<ul style="list-style-type: none"> <li>これまでの地域貢献に関する開示に対する取組みを踏まえ地域にとっての当金庫の社会的責任、存在意義を顧客にわかりやすい形で情報開示をしていく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域貢献ディスクロージャーをディスクロージャー誌、ミニディスクロージャー誌内に掲載するとともに、広くご理解いただくためホームページ上においても随時掲載しました。</li> <li>今後もお客様にわかりやすい情報開示に取り組んでまいります。</li> </ul>
充実したわかりやすい情報開示の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>顧客に分かりやすい情報開示を推進するため、ディスクロージャー誌の充実、ホームページの更なる活用を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ディスクロージャー誌、ミニディスクロージャー誌については、お客様にわかりやすい開示方法として、2005年版より地域貢献ディスクロージャーを含めて掲載しました。</li> <li>インターネットを使用した犯罪も多発していることから、金融犯罪に対する注意喚起項目を充実させ、トップページ及びインターネット利用ページよりも閲覧いただけるようにしました。</li> <li>ホームページ上すでに掲載されている情報についても、さらに理解をしていただけるように随時更新をおこないました。</li> <li>18年6月「お客様アンケート」の結果を公表しました。この結果をもとに、さらにわかりやすい情報開示に努めてまいります。</li> </ul>
(3) 地域の利用者の満足度を重視した金融機関経営の確立	<ul style="list-style-type: none"> <li>お客様満足度向上に向けて、これまでの当金庫のやってきた取組みについて再検証するとともに、お客様満足度を重視した経営を確立するため、お客様の声を反映させる施策について検討し、業務改善につなげていく。また、その内容についてできる限り公表していく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>苦情、相談については本部・総務課において集約を行い、コンプライアンス委員会で検討、同一内容のものなどは再度発生を防ぐためにも店長会などで内容の周知徹底を行う取組みを継続しました。</li> <li>お客様満足度向上に向けた業務改善を図るため「お客様アンケート」を17年11月に実施し、お客様満足度向上に向けた業務改善を図るため検討を行い18年6月にホームページにおいて公表するとともに、営業店改装工事等に活用させていただきました。</li> </ul>
(4) 地域再生推進のための各種施策との連携等	<ul style="list-style-type: none"> <li>目配り・気配り・心配り（CS運動）のあるお客様対応に心がけ、お客様第一・地元第一の営業施策を徹底する。</li> <li>「創意工夫」の営業活動と「誠心誠意」のお客様への対応。</li> <li>「めぐろの力で地元を元気にする」の実践。</li> <li>「地域経済・金融懇談会」「目黒区産業政策区民会議」等への参画により、積極的な支援と地域貢献を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>狭域高密度による地域とのかかわりを重視した営業態勢を継続する中で、積極的に地域の行政とも連携を行い、その中で、各種会議への参画や制度融資への提言等連携を深めました。</li> <li>また、地域の環境問題に取り組む「めぐろグリーンアクションプログラム」への参加等、新しい取組みも行いました。今期においても地域の行政とタイアップした「安全・安心の街づくり」への参加を予定する等、地域の発展につながる施策との連携を深めてまいります。</li> </ul>
4. 進捗状況の公表	<ul style="list-style-type: none"> <li>当金庫の「地域密着型金融の機能強化の推進に関するアクションプログラム」に対しての取組状況を地域のお客様に対し、より分かりやすい形で半期ごとに公表していく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「地域密着型金融推進計画」について、要約をポスターとして掲示するとともにホームページ上においても掲載しております。</li> <li>進捗状況についても、「地域密着型金融推進計画」と同様に店頭パンフレットとホームページ上で公開を継続して行いました。</li> </ul>

# 目黒信用金庫の「地域密着型金融推進計画」の進捗状況について（要点）

（平成17年4月～平成18年9月）

## 当金庫が目指す金庫像

目黒信用金庫は「地域密着型金融推進計画」における当金庫の目指す金庫像の基本理念として

**地域との絆を強くし地域との共生を志す。**

**地元企業の発展と地域住民の安定したライフスタイル向上をお手伝いする。**

の2つを挙げて、当金庫の特徴である狭域高密度営業政策を更に押し進め地域活性化を目指します。

## 「地域密着型金融推進計画」主要項目の進捗状況

### 1. 事業再生・中小企業金融の円滑化

「最大限の機動力を発揮して地元の安心と豊かさに貢献する」の基本理念をもとに営業店と本部企業再生グループが一体となり、お客様に適した支援を行うことを第一として、新たに支援先企業を追加する等、取組みの強化を図りました。

新しい取組みとして、事業再生ファンド組成への参画や新銀行東京との業務提携等により、事業再生・中小企業金融の円滑化に向けた取組みが進捗しました。

また、目利き、情報収集、適切な再生支援という職員の能力向上に向けた取組みに注力し、研修の実施や本部担当部署による臨店指導を全店実施し、人材育成に努めました。

### 2. 経営力の強化

バーゼル に向けての対応を検討するとともに、リスク管理の高度化に向けて各種セミナー等積極的に職員を派遣し、人材の育成に努めました。また今期、この対応に対するシステム面、態勢面で整備が図られ、平成19年3月期の実施に向け取組みを強化いたしました。

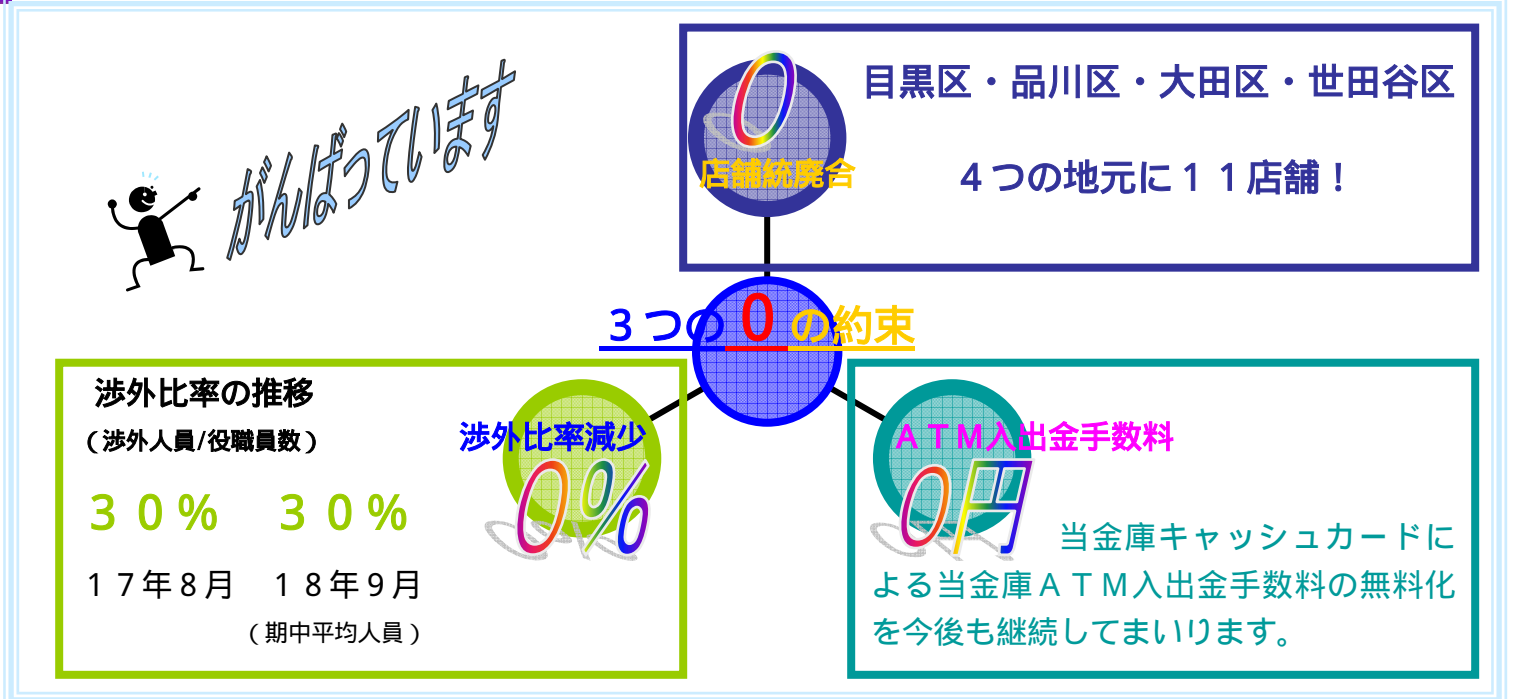
また、コンプライアンス態勢の強化を図るべく、コンプライアンス・プログラムの見直しや本部担当部署による臨店指導を行うとともに、職員向けコンプライアンス・アンケートを実施する等態勢整備に注力いたしました。

### 3. 地域利用者の利便性向上

お客様満足度の向上に向けた「お客様アンケート」を実施し、約500名の方からご回答をいただきました。いただいたご意見をもとに業務改善を進めており、今期行いました営業店の改造工事等にも活用させていただきました。

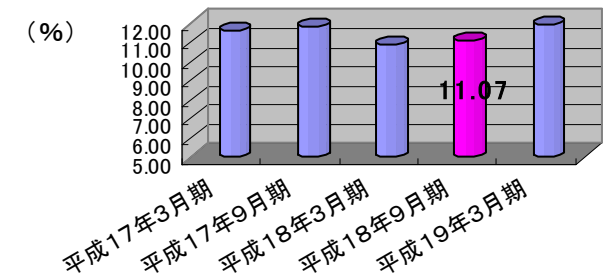
また、狭域高密度による地域とのかかわりを重視した営業態勢を継続する中で、積極的に地域の行政とも連携を行い、その中で、新しい取組みとして、地域の環境問題に取り組む「めぐるグリーンアクションプログラム」への参加や地域の安全対策に取り組む「安全・安心のまちづくり」活動に今年度下期より参画いたします。

## 重点強化期間における地域のお客様への約束

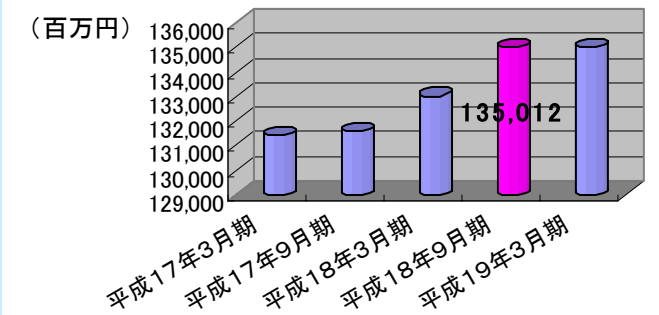


## 重点強化期間における経営指標上の目標の進捗状況

**自己資本比率 = 12%台**  
平成18年9月末においては11.07%と、引き続きお客様に安心していただける健全性を維持しております。



**預積金残高 = 1,350億円以上**  
お客様からの信頼を積み重ね、平成18年9月末においては1,350億円と目標を達成することが出来ました。今後も順調に推移することを目標に頑張ってまいります。



**出資会員数 = 11,500名以上**  
平成18年9月末の出資会員数は11,419名となりました。今後とも「めぐるのファン (=会員)」を増やしてまいります。

